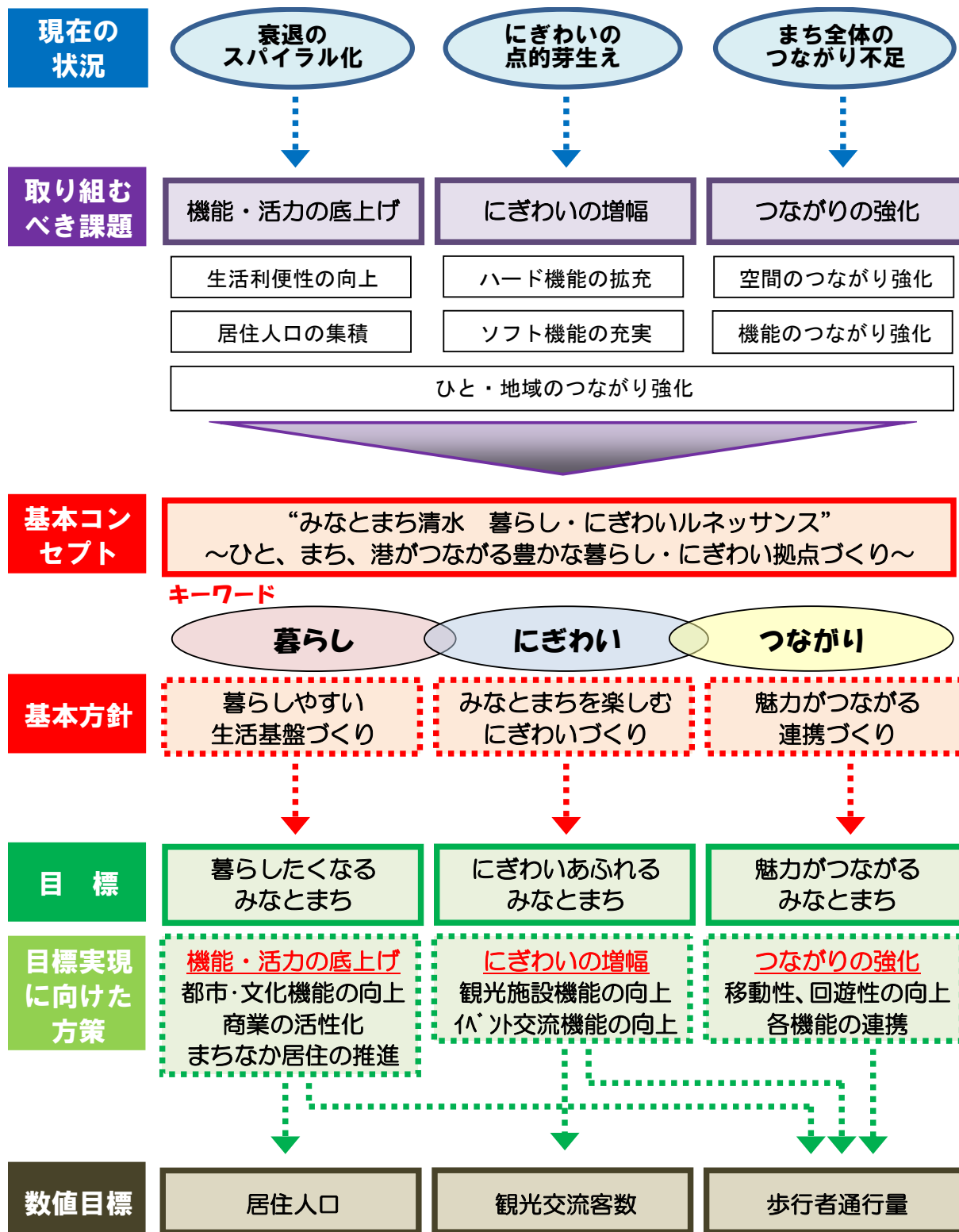


### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### [1] 目標と方策の設定

清水地区中心市街地の活性化に向けた3つの基本方針に基づき、目標（目指すべきまちの姿）、目標実現に向けた方策、その実現度合いを定量的に把握するための数値目標を次のように設定する。

#### ● 活性化の取組の全体像（現状→課題整理→基本方針→目標設定のながれ）



## ●目標の設定

活性化へ向けた目指すべき姿として3つの目標を設定する。

### 目標1：暮らしたくなるみなとまち（機能・活力の底上げ）

中心市街地の長期的な衰退傾向に歯止めをかけ、安定的かつ持続的な発展を図っていくため、生活利便性が高く、魅力的な生活環境が整った豊かな地域コミュニティづくりに取組、「暮らしたくなるみなとまち」となることを目指す。

そのために、中心市街地の暮らしの場としての機能の底上げを図るとともに、まちなか居住を推進して中心市街地の活力の源である居住人口の集積を図る。

### 目標2：にぎわいあふれるみなとまち（にぎわいの増幅）

中心市街地の強みを更に発展させるため、最大の地域資源である清水港を活用し、多くの人を訪れ、更なる交流を生み出す「にぎわいあふれるみなとまち」となることを目指す。

そのために、にぎわい拠点を中心にハード・ソフト両面の機能拡充に取り組み、みなとまちならではの魅力向上を図るとともに、平成21年6月の富士山静岡空港の開港も見据えて、市内外・国内外からの交流人口の増加を図る。

### 目標3：魅力がつながるみなとまち（つながりの強化）

まち全体のつながり不足を改善するため、まちなかの移動性・回遊性の向上を図り、中心市街地に点在する観光、商業、文化などの機能をつなげることにより、「魅力がつながるみなとまち」となることを目指す。

そのために、拠点間の移動のしにくさの解消（空間的なつながりの強化）、及び商業、観光、文化、居住等の各機能の連携不足の解消（機能的なつながりの強化）に取り組み、港周辺のにぎわいが中心市街地全域に波及することを目指す。

## ●方策の設定

目標の実現に向けて、具体的に取組の方向性である7つの方策を設定する。

### 目標1 暮らしたくなるみなとまち

#### 方策1：都市・文化機能の向上

中心市街地に都市・文化機能が不足している状況に対し、中心市街地内、特に利便性の高いJR清水駅前に、大人から子どもまで幅広い世代が楽しめる都市・文化施設を集中的に整備することにより（郊外からの移転、既存ストックの活用・充実を含む）、みなとまち“清水”の都市・文化機能充実を図り、多くの市民が訪れる魅力あふれるまちなか空間を創出する。

#### 方策2：商業の活性化

中心市街地の商業機能が著しく衰退している現状に対し、既存商業機能の底上げ、新たな集客核となる商業施設等の整備、中心市街地の回遊性向上による商店街のにぎわい回復を図ることにより、中心市街地の商業再生を目指し、暮らして便利なまちなか空間を創出する。

#### 方策3：まちなか居住の推進

中心市街地の居住人口が長期間にわたり減少し続けている現状に対し、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業を通して新規に住宅を供給することにより直接的に居住人口の増加を図るほか、居住者の生活利便性の向上に資する各種事業を実施することにより住みやすい生活環境を形成し、まちなかの居住地としての魅力向上を図る。

### 目標2 にぎわいあふれるみなとまち

#### 方策4：観光施設機能の向上

地域資源にちなんだにぎわい拠点が立地するという中心市街地の強みを活かし、既存の観光資源の充実を図るとともに、新たな観光施設の整備等によるハード機能の拡充、及び地域資源を活かしたプロモーションやイベントといったソフト機能の充実による観光交流機能の向上によって、にぎわいあふれるまちの実現を図る。

#### 方策5：イベント交流機能の向上

中心市街地では、清水みなとまつり等の集客力のあるイベントが開催されているが、イベントによる一時的なにぎわいが、まちの恒常的なにぎわいに必ずしもつながっていない状況にある。既存のイベントの充実を図るとともに、中心市街地内の多くの場所で、刺激あふれる多彩なイベントを頻繁に開催することにより、にぎわいにあふれ活気に満ちたまちの実現を図る。

### 目標3 魅力がつながるみなとまち

#### 方策6：各機能の連携

観光、商業、文化といった機能が、まちなかに点在し、相互の連携がとれていない状況を踏まえ、ちびまる子ちゃんやまぐろといった清水の地域資源を活用した新たな集客拠点の整備や関連ソフト事業等を、まちづくり計画等に基づいて戦略的に実施することにより相乗効果を生み出し、魅力的なまちの実現を図る。

#### 方策7：移動性、回遊性の向上

まちなかの拠点間の移動がしにくく、一体感が欠如している状況に対し、拠点間の移動性・移動性の向上に取り組み、空間のつながりを強化することにより、便利で利用しやすいまちなか空間を創出する。特に、港周辺における賑わいをJR清水駅周辺及びまちなか全体へ波及させることにより、現在のワンストップ型利用から中心市街地全体での回遊型、滞在型利用への転換を促す。

### [2]期間

計画期間を、平成21年3月から平成26年3月までの5年とする。

### [3] 数値目標の設定とその考え方

目標に対応する数値目標を設定し、数値による達成度の計測、評価及び改善策の検討により本基本計画の目標の実現を図る。

#### 目標 1：暮らしたくなるみなとまち

##### 数値目標 1：居住人口

「居住人口」は、「暮らしたくなるみなとまち」づくりに向けた機能底上げの取組により、中心市街地の生活利便性が向上し、魅力的な生活環境の実現により定住人口が集積したことの成果を直接的に示す指標である。

また、公的データとして住民基本台帳において確実に集計されており、今後も定期的かつ継続的にフォローアップしていくことが可能である。

#### 目標 2：にぎわいあふれるみなとまち

##### 数値目標 2：観光交流客数

「観光交流客数」は、「にぎわいあふれるみなとまち」づくりに向けたハード、ソフト両面の機能向上に向けた取組により、観光交流人口が増加したことの成果を端的に示す指標である。

また、中心市街地における各種の観光施設利用者数、イベント参加者数の全体的な統計であり、毎年個別の統計を集計することにより、今後も定期的かつ継続的にフォローアップしていくことが可能である。

#### 目標 3：魅力がつながるみなとまち

##### 数値目標 3：歩行者通行量

「歩行者通行量」は、「魅力がつながるみなとまち」づくりに向けた中心市街地における機能的及び空間的なつながり強化に向けた取組により、まちなかの回遊性、移動性の向上が図られ、回遊型、滞在型の利用が向上したことの成果をより客観的に示す指標である。

また、目標 1「暮らしたくなるみなとまち」づくり及び目標 2「にぎわいあふれるみなとまち」づくりとともに全体的な取組効果を反映したものであり、中心市街地活性化の達成度合いを総合的に示す指標である。

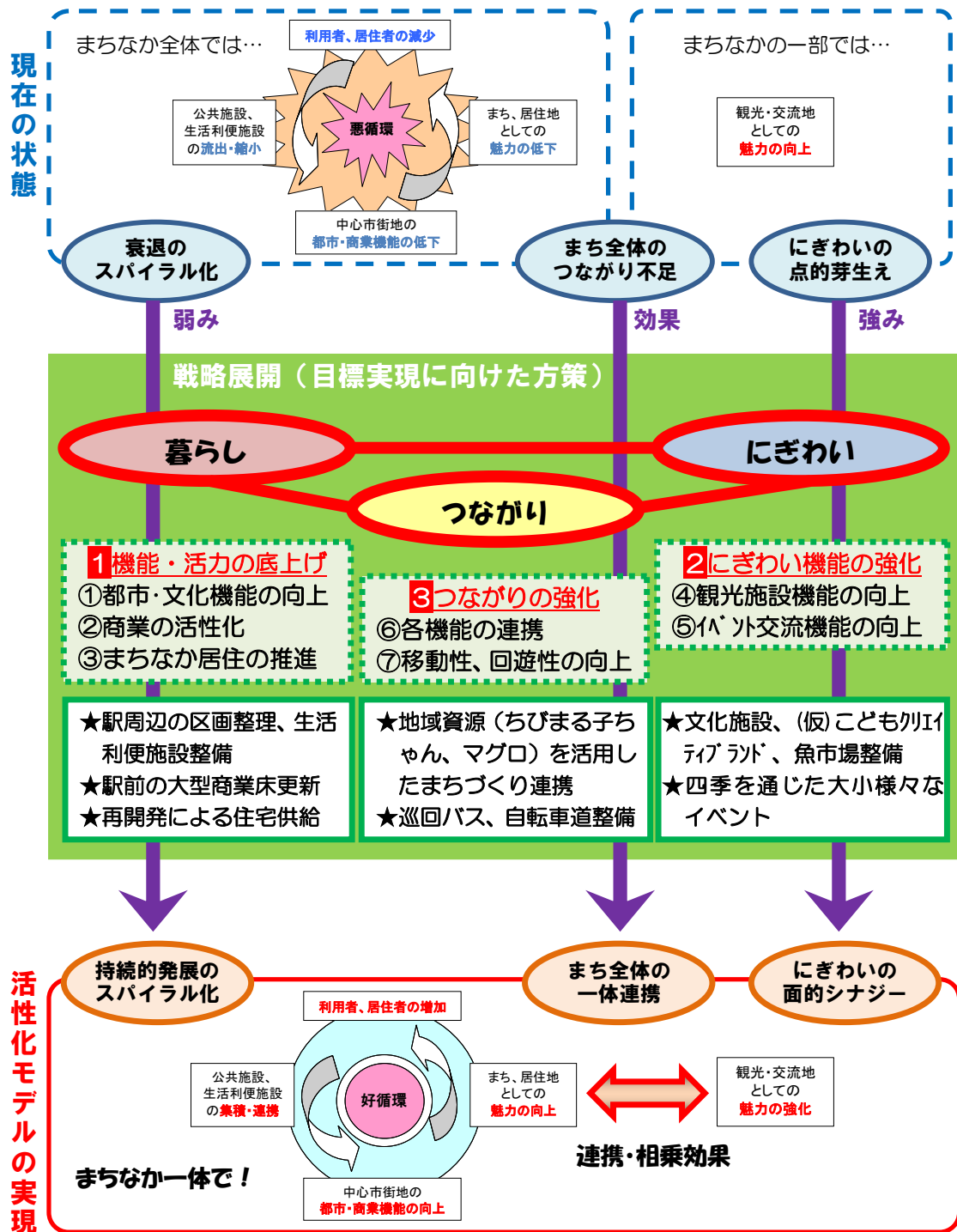
また、これまで清水商店街連盟が実施してきた 3 年おきの歩行者通行量調査をベースにしており、今後清水中心市街地活性化協議会において毎年定点的に観測することにより、引き続き定期的かつ継続的にフォローアップしていくことが可能である。

#### [4] 戦略的な事業展開の考え方

活性化の取組に当たっては、過去の取組の反省を踏まえ、各事業を散逸的に行うのではなく、総合的な視点で戦略的に展開し、効果的に活性化を図っていくことが必要である。

戦略的展開の考え方としては、清水地区中心市街地が抱える「弱み」（＝都市機能、商業機能の低下、居住人口の減少）を改善し、「強み」（＝観光・集客資源の存在）を活かすとともに、「効果」（各機能の連携、相乗作用）を最大化していくというものであり、ポイントとなる主要施策を中心に、各事業を確実に実施、展開していくものとする。

#### 【戦略展開の考え方（目指すべき活性化モデル実現に向けて）】





# (1)「弱み」を改善するための戦略（機能・活力の底上げ）

## 現 状



## 戦略的事業展開（①都市・文化機能の向上）





## 戦略的事業展開 (②居住人口の増加)



## 戦略的事業展開 (③商業の活性化)





## 【主要事業】

### ◆都市・文化施設の戦略的・集中的整備～トライアングル文化・集客ゾーンの形成～

(仮称) こどもクリエイティブランド

- JR清水駅に隣接する清水駅西第一地区市街地再開発ビル内に設置予定。
- 清水を舞台としたアニメ「ちびまる子ちゃん」とその作者で清水区出身のさくらももこさんにちなみ、さくらももこ作品展示、創作活動サポート機能、遊び・交流機能(図書コーナー、遊戯スペース等)、職業体験機能を整備する。
- 子どもから大人まで、また日常から観光利用まで多様なニーズに対応する。



### トライアングル文化・集客ゾーン

さくらももこさんをシンボルとした子どもの創造的活動支援及び市内外からの集客拠点

熟成された多様な文化の発信拠点!!

子どもから大人まで幅広い市民活動の発信拠点

高度で熟成された、多様な文化の体験拠点

### 清水テルサ

- 多目的ホール、音楽練習室、和室、茶室、フィットネスクラブ、レストラン等を有する既存施設
- 多目的ホールは中規模ホール(500席)で、音楽練習室を備えるなど音楽系の催事に対応可能  
⇒清水駅東地区文化施設と機能分担
- 清水中央子育て支援センターを併設



### 清水駅東地区文化施設

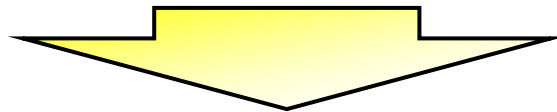
- 郊外の文化ホールを中心市街地に移転改築  
⇒年間20万人が中心市街地に
- 大ホール(1,700席)、小ホール(300席)
- 大ホールは質の高い舞台芸術(ミュージカル、オペラ、演劇、舞台)が上演できる多目的ホールとして、小ホールは小音楽会、各種発表会が出来る施設として整備
- 市民の発表の場としての活用も想定



文化ホール(イメージ図)

## (2)「強み」を活かすための戦略 (にぎわい機能の強化)

### 現況



### 戦略的事業展開 (④観光施設機能の向上)





## 目標実現に向けた事業展開 (⑤イベント交流機能の充実)



### 【主要事業】

#### ◆みなとまち“清水”の地域資源「まぐろ」を活かした事業展開

##### 江尻地区交流拠点整備

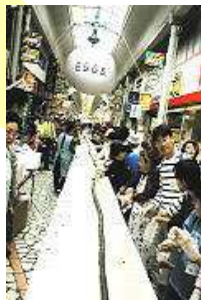
- 老朽化した魚市場の改築と観光集客施設である河岸の市の機能充実に一体で実施
- 最大の地域資源である、海・港・海産物（まぐろなど）を活用した施設を整備することにより観光交流機能の充実を図り、交流人口の増大による賑わい創出を図る。



清水港の豊かな地域資源「日本一のまぐろ」を活かした  
拠点整備（ハード）とイベント（ソフト）の一体的展開!!

##### まぐろに関するイベント開催

- 清水駅前商店街が、地域資源であるまぐろを活用したイベント「鉄火巻き日本一に挑戦」を開催し、まぐろのまち清水をPRする
- 「清水港マグロまつり」を開催し、中心市街地内のイベント広場、商店街、寿司店、施設を活用し、まぐろに関するイベントを集中的に開催する。



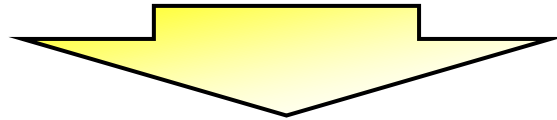
##### シティセールス「まぐろのまち」

- 清水港が輸入量日本一を誇るまぐろを活用して、シティセールスを展開し、「まぐろのまち静岡」を全国にPRする。中心市街地は魚市場等を有することから、「まぐろのまち」の中心拠点として位置づけ、まぐろを活用した賑わい創出、市内外からの誘客を図る。



### (3)「効果」を最大化させるための戦略(つながりの強化)

#### 現状



#### 戦略的事業展開(⑥各機能の連携)





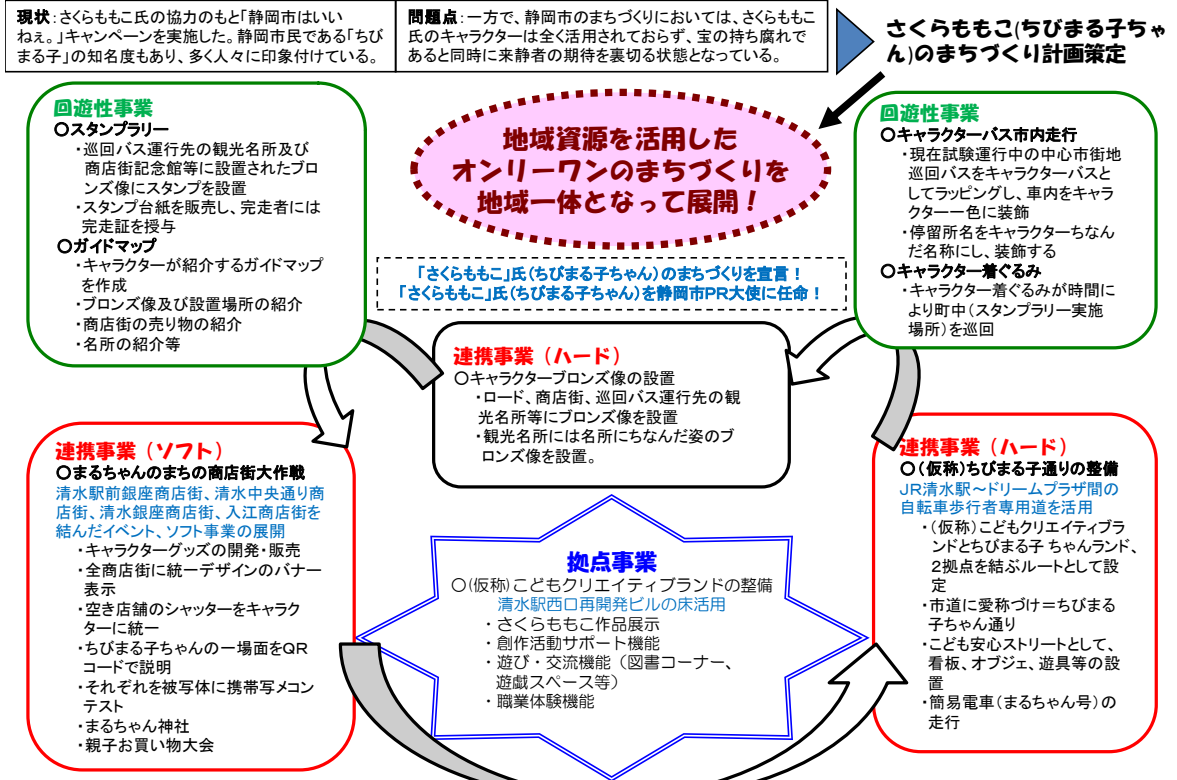
# 戦略的事業展開 (⑦回遊性、移動性の向上)



## 【主要事業】

### 地域資源を活用したのまちづくり計画策定による地域一体のまちづくり

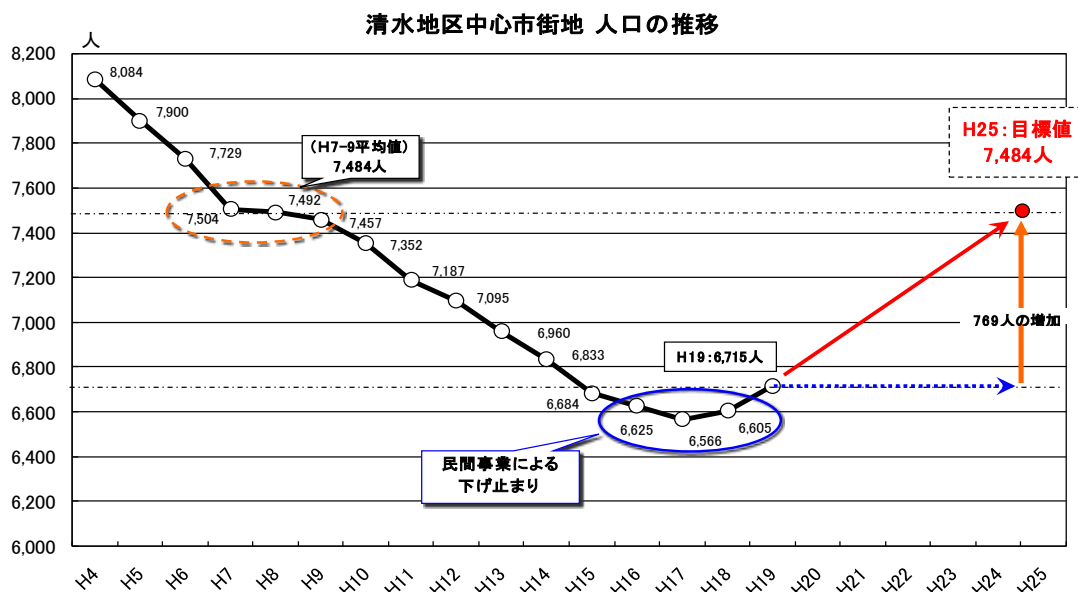
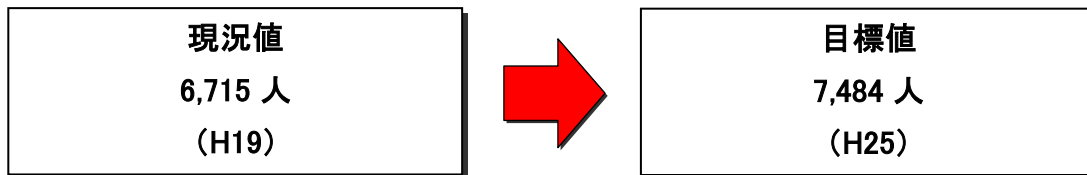
#### さくらももこ氏のキャラクターを使用した地域一体まちづくりの展開イメージ(案)



## [5] 数値目標

### (1) 数値目標 1 : 居住人口

#### ● 数値目標設定の考え方と根拠



出典：住民基本台帳

### 1. 現状分析

- 中心市街地の居住人口の減少は著しく、平成4～17年の14年間で約1,500人減少している。
- 平成7～9年の3年間では横ばいを示しており、一時的ではあるが人口減少がくい止められている。
- 平成17年で下げ止まり、平成18年以降はわずかではあるが増加に転じている。この時期に、中心市街地内でいくつかの民間マンション建設が行われたことが影響していると考えられる。

### 2. 目標設定の観点

- 近年増加した人口を確実に維持するとともに、さらなる上積みを目指して取り組むこととし、5年以内に目指すべき実現可能な目標を設定する。

### 3. 目標の設定

衰退傾向が強まり始める前の平成7～9年を、中心市街地の活力や賑わいが一定程度維持されていた時期として捉え、平成7～9年の平均居住人口を目標として設定する。

#### 4. 目標達成の根拠及びその取組

①住居の供給等による居住人口増	699 人
②居住環境に関する価値の高まりによる入居率の向上	83 人
<b>合計</b>	<b>782 人</b>

**6,715 人（現況値） + 782 人（増加見込み） = 7,497 人 ≥ 7,484（目標値）**

※近年の動向から、中心市街地の人口は下げ止まりにあると推測し、過去の年間通減数は加味しないものとする。

#### <各種取組による増加分の内訳>

##### ① 住居の供給等による居住人口増

「清水駅西第一地区市街地再開発事業」「清水駅西第二地区優良建築物等整備事業」「清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業」「真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業」等における住宅供給の増加及び近年の住宅供給予測より、699 人の増加を見込む。

#### ○市街地再開発事業等による居住人口増

<市街地再開発事業等による居住人口増>

事業名	計画戸数	計画人口	入居率	目標年次人口	備考
清水駅西第一地区市街地再開発事業	140 戸	319 人	95%	303 人	H24 年度完成予定
清水駅西第二地区優良建築物等整備事業	31 戸	71 人	95%	67 人	H23 年度完成予定
清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業	60 戸	137 人	95%	130 人	H21 年度完成予定
真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業	92 戸	210 人	95%	199 人	H22 年度完成予定
<b>小計</b>	<b>323 戸</b>	<b>737 人</b>	—	<b>699 人</b>	—

(条件) : ○1 世帯あたり人口 : 2.28 (人/世帯 (戸))

- ・ 中心市街地人口 (H18) : 6,605 人
  - ・ 中心市街地世帯数 (H18) : 2,895 世帯
- ⇒ 6,605 人 / 2,895 世帯 = 2.28 (人/世帯)

○マンション目標入居率 : 95%

- ・ 事業実施によるまちなかの居住率を 95%に向上することを目指す。

## ○新規住宅供給に関する事業

### ◆清水駅西第一地区市街地再開発事業

清水地区中心市街地の玄関口である J R 清水駅の西口において、駅を中心とした商業・業務機能の充実と、中心市街地への定住化の促進を図るため、清水駅西土地区画整理事業と同時に、大型商業施設、事務所、住宅を備えた民間再開発ビルの整備を行い、清水の玄関口に相応しいまちづくりを推進する。

#### ▲事業の概要

地区面積：約 0.6ha

施行期間：平成 20 年 2 月～平成 24 年 6 月（工事竣工予定）

総事業費：約 85 億円

#### ▲施設建築物概要

所在地：静岡市清水区辻一丁目

地域・地区：地区計画（第 1 都心商業地区）・商業地域  
・準防火地域・高度利用地区

建築敷地面積：約 3,700 m<sup>2</sup>

建築面積：約 2,900 m<sup>2</sup>

建築延床面積：約 33,700 m<sup>2</sup>

建ぺい率：78%

容積率：648%

構造：鉄筋コンクリート造

階数：地下 1 階 地上 26 階

用途：商業（3,159 m<sup>2</sup>）、業務（2,788 m<sup>2</sup>）、住宅（約 140 戸）、駐車場（約 240 台）



<再開発計画図イメージ図>

### ◆清水駅西第二地区優良建築物等整備事業

清水地区中心市街地の玄関口である J R 清水駅の西口において、駅を中心とした商業・業務機能の充実と、中心市街地への定住促進を図るため、清水駅西土地区画整理事業と同時に、商業、業務、住宅、駐車場を備えた民間再開発ビルの整備を行い、清水の玄関口に相応しいまちづくりを推進する。

#### ▲事業の概要

地区面積：約 0.05 ha

施行期間：平成 21～23 年（工事竣工予定）

#### ▲施設建築物概要

用途：商業、業務、住宅、駐車場

所在地：静岡市清水区辻一丁目

地域・地区：商業地域・準防火地域・地区計画（第 1 都心商業地区）

建築敷地面積：約 571.73 m<sup>2</sup>

建築面積：約 367.77 m<sup>2</sup>

建築延床面積：約 3,098 m<sup>2</sup>

建ぺい率：64.33%

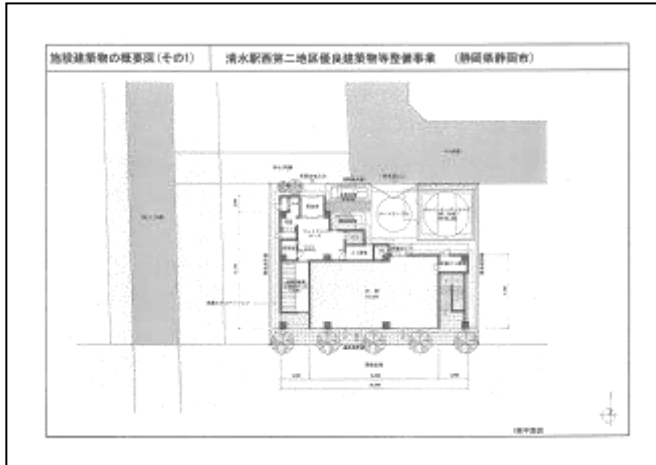
容積率：499.00%

構造：鉄筋コンクリート造

階数：地上 13 階

用途：店舗（397.52 m<sup>2</sup>）・事務所（2 戸）・共同住宅（31 戸）・駐車場（35 台）





< 1階平面図、イメージバース >



### ◆清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業

清水銀座商店街内に、商業、事業所、診療所、住宅、駐車場を備えたビルを整備し、居住人口の増加や地域商業の活力向上を図る。

#### ▲事業の概要

地区面積 : 約 0.15ha  
 施行期間 : 平成 20～21 年 (工事竣工予定)

#### ▲施設建築物概要

用途 : 商業、業務所、診療所、賃貸住宅 (63 戸)  
 階数 : 地上 10 階

### ◆真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業

J R 清水駅に隣接する清水駅前銀座商店街のほぼ中心に位置する地点に、商業、住宅、駐車場を備えたビルを整備し、居住人口の増加や地域商業の活力向上を図る。

#### ▲事業の概要

地区面積 : 約 0.29ha  
 施行期間 : 平成 17 年 12 月～平成 23 年 3 月 (工事竣工予定)  
 総事業費 : 約 28 億円

#### ▲施設建築物概要

所在地 : 静岡市清水区真砂町  
 地域・地区 : 商業地域・準防火地域  
 建築敷地面積 : 約 2,190 m<sup>2</sup>  
 建築面積 : 約 1,260 m<sup>2</sup>  
 建築延床面積 : 約 11,770 m<sup>2</sup>  
 建ぺい率 : 57.7%  
 容積率 : 399.2%  
 構造 : 高強度鉄筋コンクリート造 (免震装置採用)  
 階数 : 地上 20 階  
 用途 : 商業施設 (400 m<sup>2</sup>)、住宅 (92 戸)、駐車場 (92 台)

## ②居住環境に関する価値の高まりによる入居率の向上

住宅の新規供給に加え、まちなか生活の基礎的なインフラ整備、都市・文化施設の整備・充実、コミュニティ機能の向上に取り組む。これらによりまちなかに住みたくなるような魅力的な環境を整備し、居住地としての中心市街地の付加価値を高め、住居の入居率の向上に努める。平成25年度における入居率の向上により、83人の増加を見込むものとする。

### ○入居率の向上による居住人口増

計算式： $=182 \text{ 世帯} \times 2.28 \text{ 人/世帯} \times (95\% - 75\%) = 83 \text{ 人}$

(条件)：○最近3年間のマンション建設戸数：182戸 [P34 全国マンション市場動向]

○1世帯あたり人口：2.28人/世帯 [上述]

○マンション入居率：95% [上述]

○現状の中心市街地のマンション入居率75% (不動産事業者ヒアリング結果より)

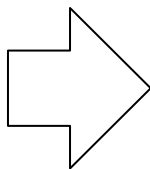
### ○居住に関するインフラ整備

#### ◆清水駅西土地区画整理事業

清水区の玄関口にふさわしいまちづくりを実施するため、JR清水駅西口において、土地区画整理を実施し、広場、道路等の都市基盤を再編成する。



<現況>



<区画整理事業イメージ図>

#### ◆交通安全施設等整備事業

快適な歩行空間と景観に配慮した高質な都市空間の形成を目指して、電線地中化と歩道整備を進める。

また、自転車道の整備、自転車レーンの設置・自転車走行位置の明示を行う。



<電線地中化(左)と自転車走行位置(右)のイメージ>

#### ◆(仮称)辻一丁目公園整備事業

#### ◆自転車道整備モデル事業

◆清水駅西口駐輪場の整備

◆耐震性貯水槽整備事業

○都市・文化施設の整備・充実

◆清水駅東地区文化施設の整備

◆（仮称）こどもクリエイティブランド整備事業

◆清水テルサ運営事業

○コミュニティ機能の充実

◆商店街コミュニティ向上支援事業（隣人祭り）

地域の「つながり」を再認識するため、商店街の店主及びその周辺の住民が身近な問題から地域の活性化まで自由に語り合い、互いに知り合うためのきっかけづくりを行う。

◆商店街健康相談会事業

商店街の空き店舗を活用し、定期的に骨密度、血圧、体脂肪率等の測定を行うとともに、その結果に基づき、保健師や栄養士による健康相談会を行う。

◆農作物の直売事業（まちなか朝市）

◆団塊の世代対策事業

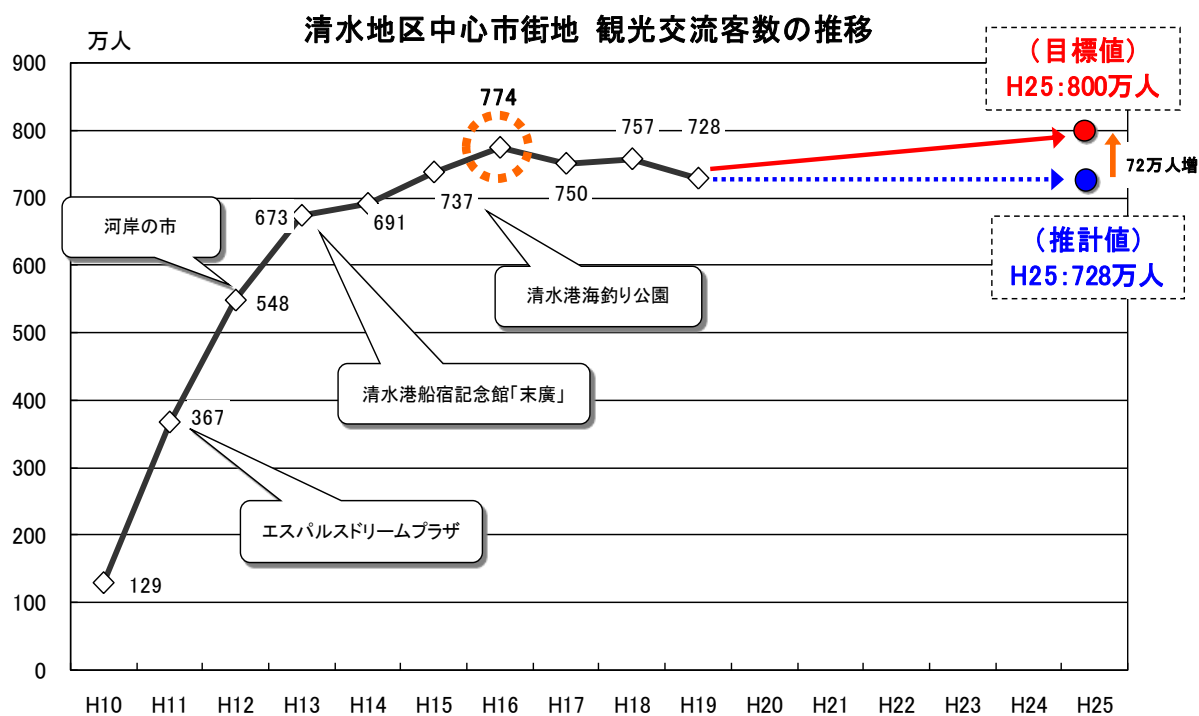
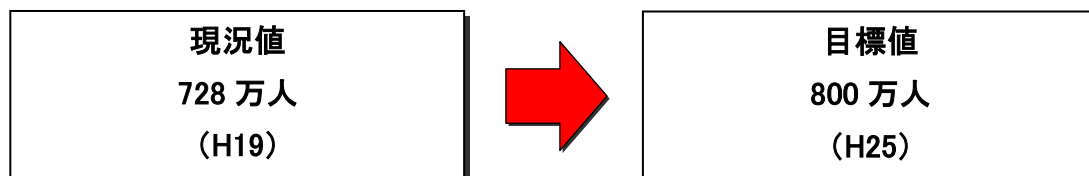
◆集会所建設費補助制度

<フォローアップの考え方>

事業の進捗状況について毎年度確認し、状況に応じて事業の進捗促進のための措置を講じていくとともに、計画期間の中間年度にあたる平成 23 年度には数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。また、最終年度にあたる平成 25 年度の終了後には、それまでに検証した事項を含め再度検証する。数値目標の検証方法としては、毎年、4 月 1 日現在の住民基本台帳により中心市街地の「居住人口」の現状把握、分析、評価を行うこととする。

## (2) 数値目標2：観光交流客数

### ●数値目標設定の考え方と根拠



出典：静岡県観光統計データ

### 1. 現状分析

- 平成16年度まで、新たな観光交流施設が連続して整備されたことの影響により、毎年大幅な伸びを示している。
- 平成16年度から17年度にかけて減少し、それ以降はほぼ横ばいから微減傾向にある。

### 2. 目標設定の観点

- 中心市街地内の11施設(※1)及び7イベント(※2)に加え、新規の3施設(※3)及び2イベント(※4)の利用者数・参加者数の合計を目標とする。

※1 静岡観光汽船、フェルケール博物館、次郎長生家、清水港船宿記念館「末廣」、清水港海釣り公園、ふじや釣具店、原金つり船、山本釣り船店、エスパルスドリームプラザ、河岸の市、清水マリンパーク

※2 清水マリンフェスティバル、清水みなとまつり、七夕まつり、巴川灯ろうまつり、清水農業まつり、朝市、清水港カウントダウン

※3 清水駅東地区文化施設、(仮称)こどもクリエイティブランド(文化発信機能)、江尻地区交流拠点(清水魚市場再整備)

※4 清水港マグロまつり、清水アートクラフトフェア

- 地域資源を活用した既存観光施設の機能の拡充や既存イベントの充実により観光



交流客数の増加を図るとともに、平成 21 年 6 月の「富士山静岡空港」開港による交流人口の増加を見込み、5 年以内に実現可能な目標を設定する。

### 3. 目標の設定

新規観光交流施設の整備や既存施設、イベントの充実等により観光交流客数が増加することを、中心市街地が活性化した状態として位置づけ、過去数年間で最も観光交流客数が多かった平成 16 年度を上回る水準を目標として設定する。

### 4. 目標を達成するための取組

①魅力ある観光交流施設の整備による観光交流客数増	32.8 万人
②観光交流施設の充実による観光交流客数増	40.3 万人
③イベントの充実による観光交流客数増	+α
<b>合計</b>	<b>73.1 万人</b>

$$728 \text{ 万人 (現況値)} + 73.1 \text{ 万人 (増加分)} = 801.1 \text{ 万人} \geq 800 \text{ 万人 (目標値)}$$

#### <各種取組による増加分の内訳>

#### ① 魅力ある観光交流施設の整備による観光交流客数増

「清水駅東地区文化施設」、「(仮称) こどもクリエイティブブランド (文化発信機能)」、「江尻地区交流拠点 (清水魚市場再整備)」を整備し、魅力ある観光交流機能の情報発信を積極的に行うことにより、32.8 万人の観光交流客数の増加を見込む。

#### ○魅力ある観光交流施設の整備による観光交流客数増

<市街地再開発事業等による新規施設の整備>

事業名	計画面積	単位面積あたり 施設利用者	目標年次 施設利用者	備考
清水駅東地区 文化施設の整備	12,300 m <sup>2</sup>	11.07 人/m <sup>2</sup>	136,161 人/年	H24 年度 開館予定
(仮称)こどもクリエイティ ブランド整備事業 (文化発信機能等)	800 m <sup>2</sup>	—	192,002 人/年	H24 年度 完成予定
<b>小計</b>	<b>13,100 m<sup>2</sup></b>	<b>—</b>	<b>328,163 人/年</b>	<b>—</b>

計算式： 136,161 人 + 192,002 = 328,163 人/年 ≒ 32.8 万人

(条件)： ○単位面積あたりの文化施設利用者

《参考：清水文化センター》

清水文化センター (H19)：9,847 m<sup>2</sup>

清水文化センター利用者数 (H19)：約 109,000 人/年

⇒109,000 人 ÷ 9,847 m<sup>2</sup> = 11.07 人/m<sup>2</sup>

○ (仮称) こどもクリエイティブランド利用者

	手塚治虫記念館	アンパンマンミュージアム	石の森漫画館	水木しげる記念館	大栄歴史文化学習館(青山剛昌ふるさと館)
床面積㎡	837	1,088	1,954	660	679
入場者数(初年度)	540,000	200,000(9ヶ月)	252,100(8ヶ月)	203,060(10ヶ月)	80,000
関連施策		アンパンマン列車 アンパンマンバス スタンプラリー等		鬼太郎列車 鬼太郎フェリー 鬼太郎ロード ブロンズ像の設置 グッズの販売 スタンプラリー等	コナン通り ブロンズ像の設置 グッズの販売

○ (仮称) こどもクリエイティブランド整備事業のコンセプト等

- ・清水を舞台にした大人から子供まで幅広い世代に、また、日本のみならずアジアを中心に世界的に人気が高いアニメ
- ・エスパルスドリームプラザのちびまる子ちゃんランドは開店後8年以上経過するが年間10万人以上の安定的な来客があり、新施設との相乗効果が期待できる。
- ・まちづくりの観点から、交通機能、ソフト施策の展開も検討する。

⇒以上の観点を踏まえ、他の先進事例を参考に、最も来場の多かった手塚治虫記念館及び少なかった大栄歴史文化学習館を除き、他の3施設の平均程度の来場を想定し、平均入場者数、床面積等から按分し算定する。

計算式:  $(200,000/9 \times 12 + 252,100/8 \times 12 + 203,060/10 \times 12) \times 800 \div (1,088 + 1,954 + 660) = 192,002 \text{ 人/年}$

② 観光交流機能の充実による観光交流客数増

様々な取組を実施することにより観光交流機能の充実を図るとともに、「富士山静岡空港」開港にあわせて国内外からの集客を促進することにより、40.3万人の観光交流客数の増加を見込む。

○観光交流機能の充実による観光交流客数増

計算式:  $34.8 \text{ 万人} + 5.5 \text{ 万人} = 40.3 \text{ 万人}$

(条件): ○新規施設の整備や既存施設の充実等による観光施設利用者増: 34.8万人

- ・清水地区中心市街地が持つ地域資源を活用して、新規施設の整備(江尻地区交流拠点整備促進事業(清水魚市場再整備事業)、清水エスパルスドリームプラザ観覧車建設事業)、既存施設の充実(ちびまる子ちゃんランドの機能拡充、魚市場・河岸の市の相乗効果)等による差別化を図り、観光交流客数の増加を図る。
- ・観光先進地域における観光入込客の増減とその要因(取組)との相関関係を調査・分析した結果によると(\*)、地域資源を活用による差別化(新たな施設の整備など)をした地域における5年間での観光入込客増加率は6.3%である。
- ・このことを参考にして、同様の取組を実施することにより観光施設利用者数が6.3%増加すると想定する。
- ・観光施設利用者数の推計値: 553.6万人(観光交流客数728万人(現状)からイベント参加者を除いた数値)  
⇒ $553.6 \text{ 万人} \times 6.3\% \approx 34.8 \text{ 万人}$

○「富士山静岡空港」開港による観光施設利用者増: 5.5万人

- ・富士山静岡空港の開港に合わせてシティ・セールスを実施することなどにより、国内外から観光施設利用者が増えると想定する。
- ・静岡県全体の観光入込客数(平成18年度)と富士山静岡空港の利用者数予測との比較を参考にして、観光施設利用者が1%増加すると想定する。

[算出根拠]

{138 万人 (富士山静岡空港の年間利用者数予測) ÷1 億 3952 万 6 千人 (静岡県全体の年間観光入込客数) } ×100 ≒1%

⇒553.6 万人 (推計値の内の観光施設利用者数) ×1% ≒5.5 万人

(\*) 経済産業省商務情報政策局サービス産業課『先進 99 地域の取り組みに学ぶ観光・集客力向上への手引き～データからみた集客拡大に向けた 10 の秘訣～』(2008)

- ◆江尻地区交流拠点整備促進事業 (清水魚市場整備事業)
- ◆ (仮称) こどもクリエイティブランド整備事業
- ◆エスパルスドリームプラザ観覧車建設・運営事業
- ◆ちびまる子ちゃんランドの機能拡充

### (参考③) イベントの充実による観光交流客数増

新規イベントの開催や、「富士山静岡空港」開港に合わせて国内外からの集客を促進することにより、観光交流客数の増加を見込む。

#### ○イベントの充実による観光交流客数増

(条件) ○新たなイベントの開催によるイベント参加者増 : 8 万人

- ・清水港マグロまつり…5 万人
- ・清水アートクラフトフェア…3 万人

⇒5 万人+3 万人=8 万人

○既存イベントの充実等による参加者数の維持

- ・既存イベントの充実や富士山静岡空港開港による国内外からの集客を促進することにより、近年一部で減少傾向のある既存イベントの参加者数を維持するとともに、できる限り上積みを図る。

- ◆清水七夕まつり
- ◆清水巴川灯ろうまつり
- ◆清水みなと祭り
- ◆清水港マグロまつり
- ◆静岡おだっくい祭り
- ◆イルミネーション設置事業
- ◆清水アートクラフトフェア
- ◆清水港客船誘致事業
- ◆登録有形文化財の活用
- ◆みなとの見学会
- ◆大道芸ワールドカップ in 静岡



<清水の夏祭りの風景>

これらの事業及びその他の新規の事業を拡充することにより、目標達成をより確実なものとする。

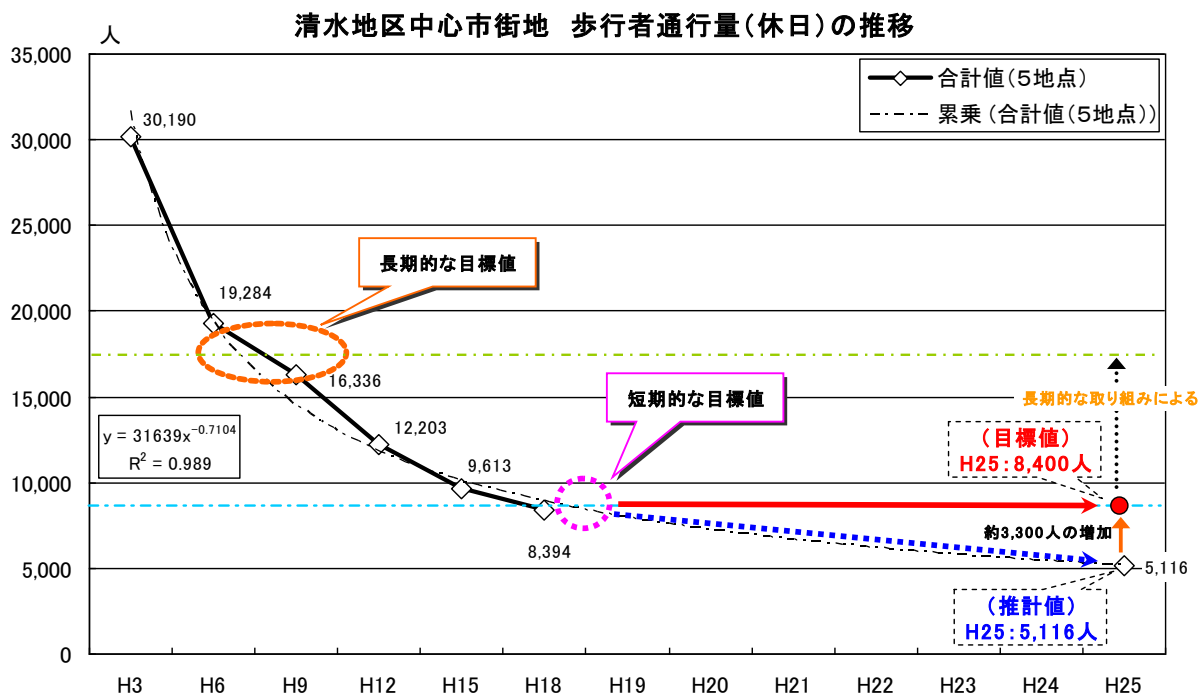
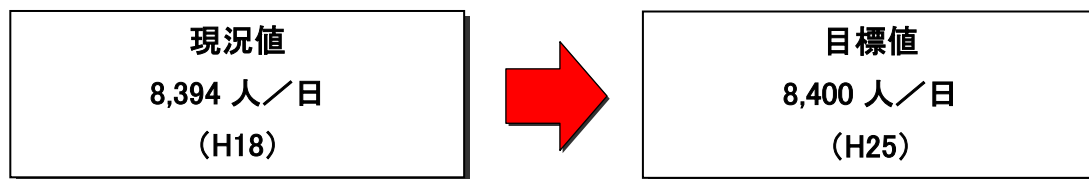
### ＜フォローアップの考え方＞

事業の進捗状況について毎年度確認し、状況に応じて事業の進捗促進のための措置を講じていくとともに、計画期間の中間年度にあたる平成 23 年度には数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。また、最終年度にあたる平成 25 年度の終了後には、それまでに検証した事項を含め再度検証する。数値目標の検証方法としては、毎年、各施設の利用者数及びイベント参加者数を集計することにより「観光交流客数」の現状把握、分析、評価を行うこととする。



### (3) 数値目標3：歩行者通行量（休日）

#### ●数値目標設定の考え方と根拠



出典：平成 18 年度通行量調査（清水商店街連盟）

#### 1. 現状分析

- 中心市街地の歩行者通行量（休日）は一貫して減少し続けており、過去 15 年間の減少率が 70%を超えるなど著しい減少傾向にある。
- 減少率は平成 3 年度から 6 年度にかけて最も大きく、平成 6 年度以降は 10～20% 代で推移している。

＜過去 15 年間の歩行者通行量の減少率の推移＞

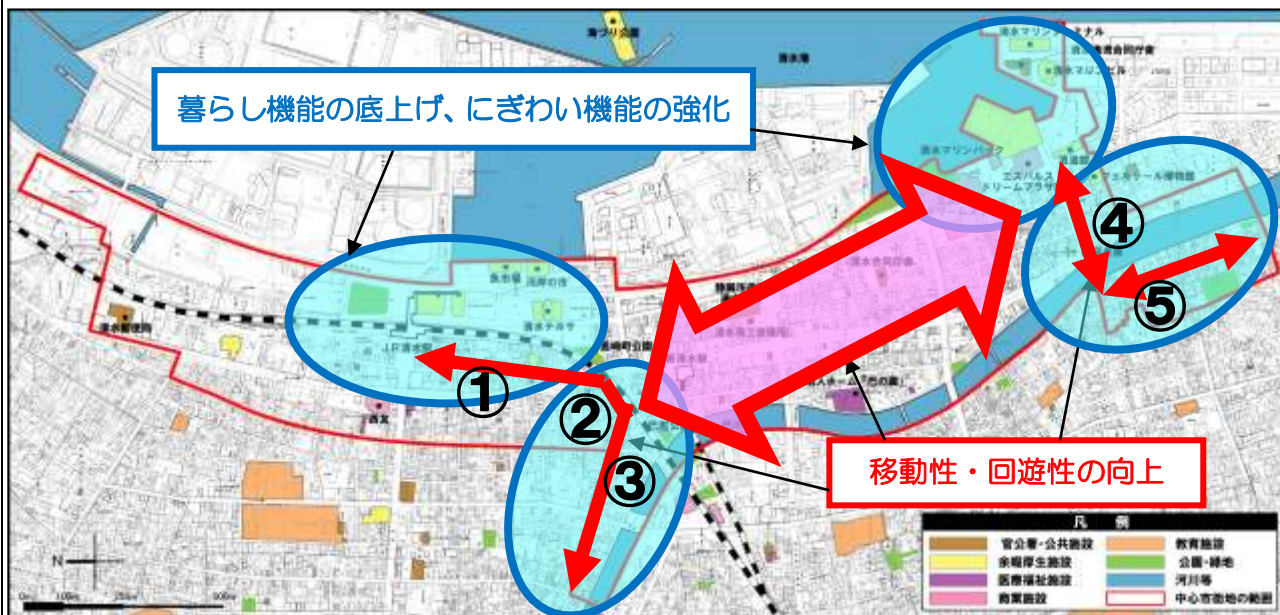
年度	平成 3 →6 年	平成 6 →9 年	平成 9 →12 年	平成 12 →15 年	平成 15 →18 年	平成 3 →18 年
減少率	-36.1%	-15.3%	-25.3%	-21.2%	-12.7%	-72.2%

#### 2. 目標設定の観点

- 目標（「暮らしたくなるみなとまち」、「にぎわいのあるみなとまち」、「魅力が  
つながるみなとまち」）の達成状況を定量的に把握するため、観光客やイベント目  
的の来街者が多く、にぎわい拠点と暮らし拠点の間の移動性・回遊性について効果  
的に測定することができる、**休日の歩行者通行量**を数値目標とする。

- 暮らし拠点やにぎわい拠点に近く、移動性・回遊性の効果を測定するのに適した5地点を調査地点とし、各調査地点の歩行者通行量の合計を数値目標とする。
- まず、減少傾向に歯止めをかけることに全力を挙げて取り組むこととし、5年以内に目指すべき**短期的な目標（＝今回の数値目標）**を設定する。
- その上で、衰退傾向が強まり始める前の平成6～7年頃を、中心市街地の活力や賑わいが一定程度維持していた時期として捉え、当時の水準まで回復することを長期的な目標として位置づける。

通行量調査地点（①～⑤）



- 調査地点①：ホテルシーグランデ前（清水駅前銀座）
- 調査地点②：蝶屋スタイル前（中央銀座）
- 調査地点③：パルホール前（清水銀座）
- 調査地点④：港町サンライス前（パル通り）
- 調査地点⑤：次郎長通り商店会事務所前（次郎長通り）

### 3. 目標の設定

長期的な目標を達成する第一歩として、平成 18 年度の現状値を維持することを目標として設定する。

### 4. 目標設定の根拠

#### (1) 実績値トレンドによる減少見込み

今後新たに商業振興施策が講じられず、現状（過去 15 年）レベルのまま推移したと仮定し、平成 24 年の減少見込みを推計する。

$$3,278 \text{ 人 (減少見込み)} = 8,394 \text{ 人 (H18 実績値)} - 5,116 \text{ 人 (H25 推計値)}$$

$$\text{平成 24 年} : 31,640^{X-0.7104} = 5,415 \text{ 人、} R^2 = 0.9884$$

(2) 達成のための取組による増加見込み

①居住人口の増加に伴う歩行者通行量増	612 人/日
②魅力ある都市・文化施設等の整備による歩行者通行量増	1,725 人/日
③商業の活性化に伴う歩行者通行量増	419 人/日
④観光交流客数の増加に伴う歩行者通行量増	1,261 人/日
⑤移動性・回遊性の向上による歩行者通行量増	+α
合計	4,017 人/日

目標達成の根拠：9,133 人/日 ≥ 8,400 (目標値)

= 8,394 人 (現況値) - 3,278 人 (減少見込み) + 4,017 人 (増加見込み)

<各種取組による増加分の内訳>

①居住人口の増加に伴う歩行者通行量増

「清水駅西土地地区画整理事業」による駅周辺の公共施設整備、及び「清水駅西第一地区市街地再開発事業」「真砂町プラザ第1地区優良建築物等整備事業」の再開発事業等による居住人口の増加により、まちなかにおける歩行者通行量として、612人の増加を見込む。

○居住人口の増加による歩行者通行量の増加

計算式： $782 \text{ 人} \times 39.1\% \times 2 \div 2 = 612 \text{ 人/日}$

(条件)：○居住人口増 (H25)：782 人 ⇒ [数値目標 1 より]

○居住人口あたりの訪問率：39.1%

・中心市街地居住者が商店街を訪れる頻度 (清水まちなかアンケート 2008 から = クロス集計)

○通過する調査地点の数：2箇所

・市街地再開発事業等が商店街周辺で実施されることから、調査地点のうち少なくとも2箇所程度を回遊するものと想定する。

②魅力ある都市・文化施設等の整備による歩行者通行量増

「清水駅東地区文化施設の整備」や「(仮称) こどもクリエイティブブランド」による都市・文化機能の向上から、約1,725人/日の増加を見込む。

## ○都市・文化機能の向上による歩行者通行量の増加

＜市街地再開発事業等による都市・文化床増＞

事業名	計画面積	単位面積あたり 施設利用者	目標年次 施設利用者	備考
清水駅東地区 文化施設の整備	12,300 m <sup>2</sup>	0.09 人/m <sup>2</sup>	1,107 人/日	H24 年度 開館予定
(仮称)こどもクリエイ ティブランド整備事業 (図書館機能等)	800 m <sup>2</sup>	0.88 人/m <sup>2</sup>	704 人/日	H24 年度 完成予定
(仮称)こどもクリエイ ティブランド整備事業 (文化発信機能等)	800 m <sup>2</sup>		693 人/日	H24 年度 完成予定
<b>小計</b>	<b>13,900 m<sup>2</sup></b>	<b>—</b>	<b>2,504 人/日</b>	<b>—</b>

計算式：2,504 人 × (0.14 + 0.28) × 1.67 - 31 人 = 1,725 人/日

(条件)：○単位面積あたりの施設利用者

《参考：清水文化センター》

清水文化センター (H19)：9,847 m<sup>2</sup>

休日の清水文化センター利用者数 (H19)：約 109,000 人/年 ÷ 950 人/日

⇒ 950 人 ÷ 9,847 m<sup>2</sup> = 0.09 人/m<sup>2</sup>

《参考：御幸町図書館》

御幸町図書館面積 (H19)：1,600 m<sup>2</sup>

休日の御幸町図書館利用者数 (H19)：約 1,400 人/日

⇒ 1,400 人 ÷ 1,600 m<sup>2</sup> = 0.88 人/m<sup>2</sup>

	手塚治虫記 念館	アンパンマン ミュージアム	石の森漫画館	水木しげる記 念館	大栄歴史文化 学習館(青山剛 昌ふるさと館)
床面積m <sup>2</sup>	837	1,088	1,954	660	679
入場者数 (初年度)	540,000	200,000 (9ヶ月)	252,100 (8ヶ月)	203,060 (10ヶ月)	80,000
関連施策		アンパンマン列車 アンパンマンバス スタンプラリー等		鬼太郎列車 鬼太郎フェリー 鬼太郎ロード ブロンズ像の設置 グッズの販売 スタンプラリー等	コナン通り ブロンズ像の設置 グッズの販売

○(仮称)こどもクリエイティブランド整備事業のコンセプト等

・清水を舞台にした大人から子供まで幅広い世代に、また、日本のみならずアジアを中心に世界的に人気が高いアニメ

・エスパルスドリームプラザのちびまる子ちゃんランドは開店後 8 年以上経過するが年間 10 万人以上の安定的な来客があり、新施設との相乗効果が期待できる。

・まちづくりの観点から、交通機能、ソフト施策の展開も検討する。

⇒以上の観点を踏まえ、他の先進事例を参考に、最も来場の多かった手塚治虫記念館及び少なかつた大栄歴史文化学習館を除き、他の 3 施設の平均程度の来場を想定し、平均来場者数、床面積等から按分し算定する。

計算式：(200,000/9 × 12 + 252,100/8 × 12 + 203,600/10 × 12) × 800 ÷ (1,088 + 1,954 + 660) = 192,002 人/年

○休日・祭日の施設利用者数

・休日・祭日と平日の施設利用者の比率：約 1.5 : 1 (ドリームプラザヒアリングより)

・休日・祭日年間約 100 日、平日年間 265 日

計算式：100 x + 265 x 2/3 = 192,002、x = 693/日 (休日)

○歩行分担率 14%

・徒歩又は自転車による都市・文化施設への来街者は、商業集積エリアへ回遊するものと想定する。(P. 42：市民アンケート調査結果より)

○徒歩又は自転車以外で都市・文化施設へ来街する者のうち、買物で回遊する割合 28%

・徒歩又は自転車以外(86%)で都市・文化施設へ来街した者のうち、買物目的(33%)の来街者は商業集積エリアへ回遊するものと想定する。(P. 41, 42：市民アンケート調査結果より)

○通過する調査地点の数：1.67箇所

・都市・文化施設と商業集積エリアとの位置的バランス等から総合的に判断し、徒歩等の来街者は1箇所(14%)、徒歩等以外の来街者は2箇所(28%)通過すると考え、都市・文化施設の来街者は調査地点に1.67箇所程度を回遊するものと想定する。

○居住人口増加による歩行者通行量増加分の重なり分の削除 31人/日

・居住人口の増加による歩行者通行量の増加分のうち、都市・文化施設を目的に調査地点を通過する者は重ねて算定されているので削除する。

・居住人口の増加に伴う歩行者通行量増：622人

・文化施設を目的に中心市街地に来街：5% (P. 42：市民アンケート調査結果より)

⇒ $622 \text{ 人/日} \times 5\% = 31 \text{ 人/日}$

### ◆清水駅東地区文化施設の整備

市民や地元関係団体等の要望等を踏まえ、本計画の対象区域外に位置し老朽化した清水文化センターを、清水駅東地区へ移転する。

市民に高次高質な芸術文化を提供し、市民参画型事業等を実施する拠点施設(大ホール、小ホール、ギャラリー)を整備することにより、「多彩な文化の継承と独自文化の創造」の実現及び居住地としての中心市街地の魅力向上を図ることを目的とする。

#### ▲施設建築物概要

所在地：静岡市清水区島崎町149番地

地域・地区：商業地域

建築敷地面積：約7,720㎡

建築延床面積：約12,300㎡

建ぺい率：80.0%

容積率：500.0%

### ◆(仮称)こどもクリエイティブブランド整備事業

#### ◆清水テルサ運営事業



<清水テルサ>



### ③商業の活性化に伴う歩行者通行量増

市街地再開発事業等による商業床の増床から、約 624 人／日の増加を見込む。

#### ○商業床の増床等による歩行者通行量の増加

＜市街地再開発事業等による商業床増＞

事業名	計画面積	単位面積あたり歩行者通行量	目標年次歩行者通行量	備考
清水駅西第一地区市街地再開発事業	3,160 m <sup>2</sup>	0.15 人／m <sup>2</sup>	474 人／日	H24 年度完成予定
清水駅西第二地区優良建築物等整備事業	398 m <sup>2</sup>		60 人／日	H23 年度完成予定
清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業	200 m <sup>2</sup>		30 人／日	H21 年度完成予定
真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業	400 m <sup>2</sup>		60 人／日	H22 年度完成予定
<b>小計</b>	<b>4,158 m<sup>2</sup></b>	<b>0.15 人／m<sup>2</sup></b>	<b>624 人／日</b>	—

計算式：  $4,158 \text{ m}^2 \times 0.15 \text{ 人} / \text{m}^2 - 205 \text{ 人} = 419 \text{ 人} / \text{日}$

(条件)： ○単位面積あたりの歩行者通行量 (参考：H19 静岡パルコ開店)

紺屋町歩行者通行量 (H19 実績値)：10,079 人

紺屋町歩行者通行量 (H19 推計値)：6,749 人

⇒H19 静岡パルコの影響による歩行者増 (紺屋町)：3,330 人

静岡パルコ床面積：22,000 m<sup>2</sup>

⇒ $3,330 \text{ 人} \div 22,000 \text{ m}^2 = 0.15 \text{ 人} / \text{m}^2$

○居住人口増加による歩行者通行量増加分の重なり分の削除 205 人／日

・居住人口の増加による歩行者通行量の増加分のうち、商店街を目的に調査地点を通過する者は重ねて算定されているので削除する。

・居住人口の増加に伴う歩行者通行量増：622 人

・買物を目的に中心市街地に来街：33% (P.42：市民アンケート調査結果より)

⇒ $622 \text{ 人} / \text{日} \times 33\% = 205 \text{ 人} / \text{日}$

#### ◆清水駅西第一地区市街地再開発事業

#### ◆清水駅西第二地区優良建築物等整備事業

#### ◆清水銀座 45-1 地区優良建築物等整備事業

#### ◆真砂町プラザ第 1 地区優良建築物等整備事業

#### ○その他、商業の活性化に資する事業

#### ◆(仮称) まちなか共同セール

#### ◆(仮称) まちなかチケットサービス

#### ◆(仮称) 清水駅前銀座まちづくり構想策定事業

#### ◆清水アートクラフトフェア

#### ◆江尻地区交流拠点整備促進事業 (清水魚市場再整備事業)

#### ◆(仮称) 商業都市 2050 戦略プロジェクト

#### ◆商店街一店逸品運動事業

- ◆商店街イベント振興事業
- ◆中心市街地にぎわい創出事業
- ◆商店街空き店舗総合活用支援事業
- ◆商店街まちづくりプラン推進事業
- ◆商店街環境整備事業
- ◆ショップモビリティ推進事業
- ◆新規商業者育成事業（しずおか商人道）
- ◆商店街アドバイザー派遣事業
- ◆商店街トータルサポート事業
- ◆農作物等の直売事業（まちなか朝市）
- ◆（仮称）「食育」による商店街活性化事業
- ◆商店街健康相談会事業
- ◆たまご（EGG）スタンプ事業
- ◆（仮称）こどもクリエイティブブランド整備事業
- ◆清水駅東地区文化施設の整備

これらの事業及びその他の新規の事業を拡充することにより、目標達成をより確実なものとする。

#### ④観光交流客数の増加に伴う歩行者通行量増

観光交流機能及びイベント機能の充実に関する事業展開により、1,261人/日の増加を見込む。

##### ○観光交流客数の増加による歩行者通行量の増加

計算式： $2,003 \text{ 人} \times (0.14 + 0.28) \times 1.67 - 143 \text{ 人} = 1,261 \text{ 人/日}$

（条件）：○1日あたりの観光交流客数の増加：731,000人 $\div$ 365 $\approx$ 2,003人/日

・観光交流客数の増加：731,000人 $\Rightarrow$ 【数値目標2より】

○歩行分担率 14%

・徒歩又は自転車による観光交流施設への来街者は、商業集積エリアへ回遊するものと想定する。（P.42：市民アンケート調査結果より）

○徒歩又は自転車以外で観光交流施設へ来街する者のうち、買物で回遊する割合 28%

・徒歩又は自転車以外（86%）で観光交流施設へ来街した者のうち、買物目的（33%）の来街者は商業集積エリアへ回遊するものと想定する。（P.41,42：市民アンケート調査結果より）

○通過する調査地点の数：1.67箇所

・観光交流施設と商業集積エリアとの位置的バランス等から総合的に判断し、徒歩等の来街者は1箇所（14%）、徒歩等以外の来街者は2箇所（28%）通過すると考え、観光交流施設の来街者は調査地点に1.67箇所程度を回遊するものと想定する

$\Rightarrow 622 \text{ 人/日} \times 23\% = 143 \text{ 人/日}$

○居住人口増加による歩行者通行量増加分の重なり分の削除 143 人／日  
・居住人口の増加による歩行者通行量の増加分のうち、観光を目的に調査地点を通過する者は重ねて算定されているので削除する。  
・居住人口の増加に伴う歩行者通行量増：622 人  
・観光、イベントを目的に中心市街地に来街：23%（P. 42：市民アンケート調査結果より）  
⇒ $622 \text{ 人} / \text{日} \times 23\% = 143 \text{ 人} / \text{日}$

- ◆(仮称)ちびまる子ちゃんのまちづくり計画策定事業
- ◆エスパルスドリームプラザ観覧車建設、運営事業
- ◆ちびまる子ちゃんランドの機能拡充事業
- ◆清水七夕まつり
- ◆清水巴川灯ろうまつり
- ◆清水みなと祭り
- ◆清水港マグロまつり
- ◆静岡おだっくい祭り
- ◆イルミネーション設置事業
- ◆清水アートクラフトフェア
- ◆清水港客船誘致事業
- ◆登録有形文化財の活用
- ◆みなとの見学会
- ◆大道芸ワールドカップ in 静岡

#### (参考⑤)回遊性・移動性の向上による歩行者通行量増

その他、交通環境整備等の歩行者通行量の増加に資する事業を推進することで、542 人／日の歩行者通行量の増加を見込む。

#### ○回遊性・移動性の向上による歩行者通行量増

計算式： $5,415 \text{ 人} / \text{日} \times 10\% = 542 \text{ 人} / \text{日}$

(条件)：H24 歩行者通行量（推計値）：5,415 人／日

歩行者増加見込み：10%（参考：「まちなか商業空間モール化事業」（静岡市））

- ◆交通安全施設等整備事業（再掲）
- ◆(仮)ベロタクシー運行事業

バスや鉄道などを補完する交通手段として、また、環境問題・高齢化社会問題・地域経済の活性化・雇用問題などの解決策のひとつとしてベロタクシーの運行を行う。平成 20 年に試験運行し、本格運行を検討する。



<ベロタクシーのイメージ>

#### ◆清水まちなか巡回バス

清水地区中心市街地の活性化をめざし、市民や観光客がより便利に移動できるよう商店街、公共施設、清水港などを結ぶ巡回バスの試験運行を平成19年10月1日より開始した。(試験運行期間：平成20年9月30日迄) 試験運行期間の利用状況より事業化を検討する。



<清水まちなか巡回バス(ラッピングバス)のイメージ>

運賃は、大人(中学生以上)100円、小人(小学生)50円。

- ◆無料シャトルバス運行事業
- ◆レンタサイクル事業
- ◆サイクルトレイン運行事業
- ◆サイクルシェアリング社会実験事業
- ◆自転車道整備モデル事業
- ◆低炭素地域づくり面的対策推進事業

#### <フォローアップの考え方>

事業の進捗状況について毎年度確認し、状況に応じて事業の進捗促進のための措置を講じていくとともに、計画期間の中間年度にあたる平成23年度には数値目標を検証し、状況に応じて目標達成に向けた改善措置を講じていく。また、最終年度にあたる平成25年度の終了後には、それまでに検証した事項を含め再度検証する。数値目標の検証方法としては、毎年、静岡市清水中心市街地活性化協議会が実施する「歩行者通行量調査」をもとに、「歩行者通行量」の現状把握、分析、評価を行うこととする。